

第4次産業革命「実証ラボ」の取組状況

- 地域ものづくり企業の多くは第4次産業革命をチャンスとも捉えているが、技術及び経営への活用についての経営者の情報・理解不足により投資判断に至っていない。
- 平成29年2月「九州地域経済・産業活性化のための『IoT・第4次産業革命』研究会」において、**第4次産業革命の国際水準の技術を経営に取り込むための【体験】【トレーニング検証】【実証・実証】を行える機能＝「実証ラボ」を提言。**
- 平成29年度は「実証ラボ」の具現化に向け、自治体・関係機関による検討会や関連セミナーを開催。

＜九州における「実証ラボ」のイメージ＞

- 実証ラボは**各種ソフトウェアを通じたサイバー・フィジカルシステム（CPS）の実践**を主な機能とするため、「**ものづくり企業がソフトウェアを活用できる環境の整備**」が基本。

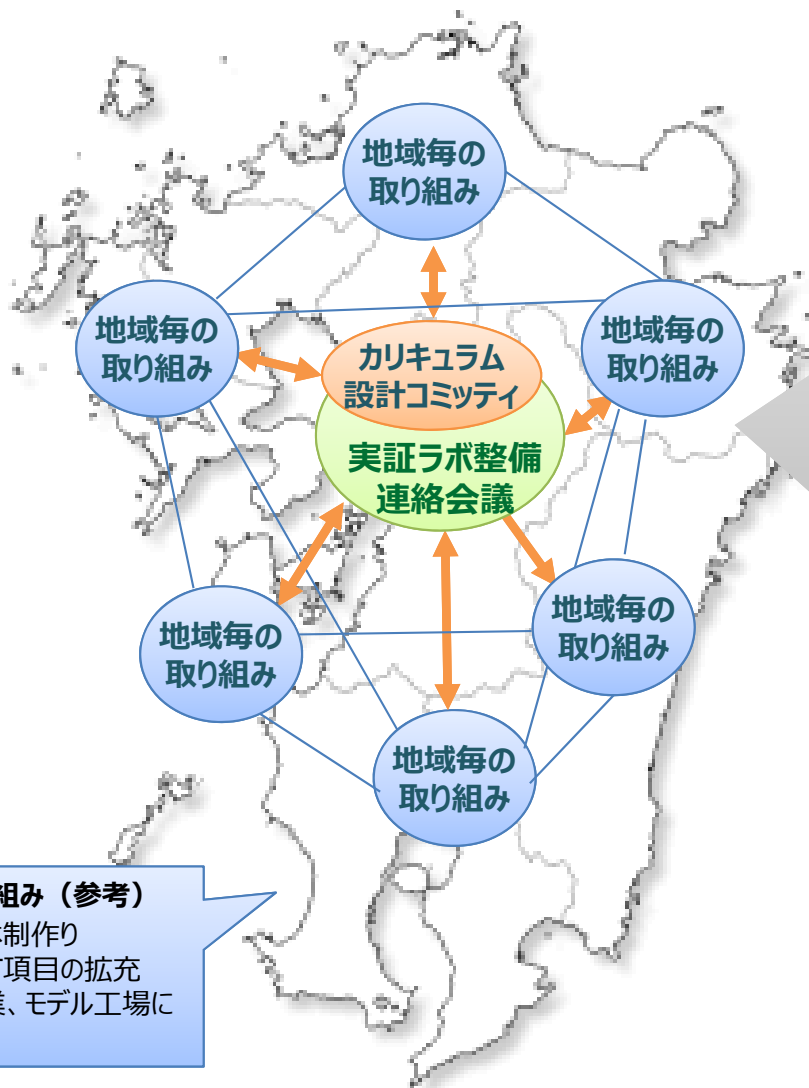
※デモ用ハードウェア(ミニ製造ラインなど)の併設は、「サイバー(仮想)」と「フィジカル(現実)」の連動性に対する理解を助けるために有効との位置付け。(よって、ハードウェアの設置は必須ではない)

- 上記をふまえ、**各地域はそれぞれの課題を解決するための演習メニュー企画やセミナーの実施、ハンズオン支援**といった取り組みを、産業教育を行う組織/団体や地元SIerとも協力しつつ進める。

- 加えて、他地域の取り組みの活用も視野に入れたソリューションの相互補完等を想定し、**九州全体の機能向上を図るため、実証ラボ整備推進のための連絡会議**を設ける。

現時点で検討中の九州全体及び各地域の取り組み（参考）

- 経営者向けのカリキュラム作成、活用に向けた体制作り
- 既存のものづくり企業向けセミナー等におけるIoT項目の拡充
- 自治体の独自予算等を活用した人材育成事業、モデル工場による実証等の実施



カリキュラム設計コミッティ（仮称） （大学/高専、公的支援機関他）

- デジタルものづくり・経営講座等、経営幹部向けメニューの開発、提示
- 教育メニュー一覧の提示（地域ラボの個別開発メニュー含む）
- 地域講師の養成

- 地域毎の取り組みとのネットワーク形成、調整
- ラボ機能の向上（個別、九州全体）

実証ラボ整備連絡会議（仮称） 事務局：九経局、活性化C、九産技C

地域からの要望を集約

既存の教育メニュー提供

ソリューションベンダー

- CPSに関するソフトウェア等の製品を販売
- 連絡会議 or 地域毎の取り組みと連携し、コンテンツに適切な教材を提案